

## 東京科学大学 CUMOT×STAMP連携プログラム 講義報告

### 経営ビジョンに欠かせない DX戦略の考え方と組織パフォーマンスの最大化 ～DXを実現する4象限と 組織ベクトルをマネジメントするリーダーの役割～

講師：坪井 正志

元 沖電気工業株式会社 取締役専務執行役員 兼 CDO



2025年12月11日、東京科学大学「CUMOT×STAMP連携プログラム」において、「経営ビジョンに欠かせないDX戦略の考え方と組織パフォーマンスの最大化～DXを実現する4象限と組織ベクトルをマネジメントするリーダーの役割～」と題し、18名の受講生を対象に対面とオンラインの併用にて講義を行った。

#### 1. 実施概要

2025年12月11日、東京科学大学 田町キャンパスにて「CUMOT×STAMP連携プログラム」の一環として講義を実施した。講義では、経営ビジョンからDX（デジタルトランスフォーメーション）を考え、そのフレームワークと製造業における実例を説明することにより、経営とDXの連動性についての理解を深めた。会社は組織の集合体であり、DXを含めすべての活動は組織を中心に行われる。リーダーの大きな役割は、組織パフォーマンスをあげることである。組織に属する個々のメンバーをベクトルで表すというアプローチによって、組織パフォーマンスを向上させる方法とリーダーの役割について事例も含めて説明した。

#### 2. グループ討議のテーマ

自社または所属する組織において、IT/デジタル技術活用に関する様々なプロジェクトが行われている。そのうち一つを選んで下記の内容について、グループメンバー内で、プロジェクトの概要、何を目的としているか、進める上での課題は何かについて討議を行った。

#### 3. まとめ

各グループからは活発な意見発表が行われた。各社のITのプロジェクトに関して、グループ内で共有できたことは意味があったようだ。また、組織マネジメントについてベクトルを用いた手法については、今後プロジェクトや組織をマネジメントする際に活用してもらうことを期待する。

#### 4. 所感

今回が初めての講座であったので準備に時間をかけた。その過程において古俣先生には多大なご支援をいただいた。受講後に講義の疑問点に関するメールをいただいた。それにより説明追加の必要性が理解できたので、今後の講義に活かしたい。